

# 「人間の尊厳・生命尊重こそ政治の基本である」

NPO法人「深澤晟雄の会」  
副理事長 佐々木 孝道さん

全国に先駆けて老人医療費の無料化に踏み切り、乳幼児死亡率ゼロを実現した旧沢内村長深澤晟雄を顕彰して、地域づくりへ貢献することをめざしているNPO法人「深澤晟雄の会」。副理事長の佐々木さんに、その活動について話を聞いた。



深澤晟雄元沢内村長の肖像と佐々木さん  
佐々木 孝道さん プロフィール  
平成19年「深澤晟雄の会」発足後、整備工場で働きながら、副理事長として活動している。平成20年に開館された、「深澤晟雄資料館」の運営にも携わっている。



● 村長時代に使用していた執務机

● 組織が立ち上がった経緯  
平成19年頃に「いのちの作法」という、深澤晟雄元沢内村長を描いたドキュメンタリー映画が撮影された。拝金主義がはびこる今の世の中、生命を尊重する深澤元村長の姿がクローズアップされた。

私は、深澤元村長の時代に助役をしていた佐々木吉男さんと同じ地区に住んでおり、若い頃から、深澤元村長の色々な話しを聞いており、「生命尊重の理念」に深い感銘を受けていた。  
平成17年11月1日に、沢内村は湯田町と合併した。沢内村はもとも農業の町であり、湯田町は観光の町である。合併すれば、「生命尊重の理念」を掲げた深澤元村長の理念が薄らいってしまうのではと考えた。そのため、何としても深澤元村長の理念を後世に伝えるべく、NPO法人「深澤晟雄の会」の発足及び「深澤晟雄資料館」の設立を真剣に考えた。

### ● 資料収集

当時、深澤元村長と行動を共にしたほとんどの人達は70歳、80歳以上の高齢となっており、資料も少なくなってきたため、今すぐに行動に移らなければ駄目だということから、平成19年にNPO法人「深澤晟雄の会」を立ち上げ、理事長には深澤元村長時代に教育長をしていた太田相電さんが就任した。深澤元村長の理念を継承するための遺品等、関係する資料を収集したものを保存、展示するメモリアルホール(資料館)を造るためにも、NPO法人「深澤晟雄の会」を設立する必要があった。

たまたまその時期に、「いのちの山河」という映画や、NHKのテレビ番組「その歴史が動いた」で深澤元村長が取り上げられた。同テレビ番組は、それまで、主に織田信長や豊臣秀吉などの戦国武将が取り上げられていたが、現代の

お寿司。おにぎり作りには横田中学校仮設住宅の女性10人が参加し、「おにぎり交流」で絆を深めることもできた。舞台では、「さわうち太鼓」が好評を博し、西和賀文化が誇る三味線に尺八・唄・踊りも喜んでもらえた。「沢内さんさ踊り」では、仮設住民も参加して会場には「復興の絆の輪」ができていた。山中紅

### ● 深澤元村長の功績

深澤元村長は、もの凄い能力の持ち主で、東北大学の法文学部を卒業し、村に帰ってから教育長・助役を経験された後、村長になった。村は、日本有数の豪雪地帯であり、冬季は陸の孤島となってしまう。深澤元村長は、憲法25条にのっとり、法律で訴えることで現状を変えようとした。

### ● 陸前高田市へ復興支援

本会では震災以降復興支援活動も行っており、10月28日に、1年ぶりに、横田中学校で陸前高田市復興支援活動を行った。当日はあいにくの雨模様ではあったが、町内外からボランティア24人が参加。食材の提供や活動費の支援など、多くの方々に支援されながらの活動だった。昼食は、おにぎり・きのこ汁・漬物などの西和賀の秋の味覚に、さんまの塩焼き・

### ● 顕彰碑文(深澤晟雄氏業績)



沢内村の自然は美しい。然し、冬季は厳しい豪雪のため原始社会に還り交通はもとより、産業も文化も麻痺状態に入り、しかも、生命を維持する最低の医療手段さえ失う生活を余儀なくされた。昭和三十三年深澤晟雄氏村長に就任するや、理想高く正義感の強い氏は、この自然の猛威を克服することを悲願として奔走。ついに村と県都盛岡まで冬季交通を確保し、特に医療行政において老弱者、乳児に対する国保の十割給付を断行。村民の平均寿命の延長、乳児死亡率の金字塔を打ち壊したことは村史に銘記すべき不滅の業績である。六千村民の輝かしい偉業を受け継ぎ、更に本村の発展と飛躍を期し「村民の道標」として、茲に氏の肖像を建立永く記念するものである。  
1966(昭和41年)9月建立



● 西和賀文化が誇る三味線に尺八、唄、踊り



● 横田中学校仮設住宅での交流



● 老人医療無料診療免祥の地「記念碑」



● いのちの館「深澤晟雄資料館」

人物では深澤元村長が初めてだった。そのためもあってか、世の中が深澤元村長のような人物を求めているかのような風潮が高まっていった。

### ● 行政との連携

「深澤晟雄の会」立ち上げ当時、深澤元村長の資料を収集したり、資料館を造ることを同時進行しながら、役場へ相談した。その頃、深澤元村長の妻が亡くなり、遺族の方から遺品等全てを提供して頂くことができた。

資料館設立の、肝心のお金については、役場等と相談した結果、かなりの好感を示して頂き、日本宝くじ協会の助成を受けることができた。結果、平成20年4月

### ● 今後に向けての抱負

全国各地には、深澤晟雄の根強いファンが居るものの、県内に住む方で、深澤晟雄という人物を知っている人が少ないのが現状である。宮沢賢治や石川啄木と言えば、県内外を問わず、かなりの方々が知っている。政治に命をかけた、「生命尊重」の理念を抱いて生きられた、「深澤晟雄」という人間をもっともっと沢内の方々に知って頂きたい。経済的な豊かさというものは、何かのきっかけであっさりとも崩れ去ってしまう。東日本大震災の津波の被害にしても、その最たるものである。健康で長生きするということを一番に考えた、「生命の尊重」を最も大切な理念として後世に伝えていきたい。今後も、全国規模で色々な発信をしていきたい。

「深澤晟雄」の功績を後世に伝えていくためにも、功績を顕彰する「深澤晟雄資料館」維持経費をなんとか確保し、皆さんの協力を得ながら頑張っていきたい。

深澤晟雄資料館

住所：〒029-5614  
岩手県和賀郡西和賀町  
沢内字太田 2-68  
TEL：0197-85-3838  
FAX：0197-85-3838

情熱